津貫豊祭太鼓踊

【所　在　地】南さつま市加世田津貫（豊祭太鼓踊保存会）
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】昭和 39 年６月５日

津貫の太鼓踊りは他の地方で踊られているものとはちがっていて古い時代からの豊祭を祝ってのものと思われる。津貫中間地区にある天御中主神社の祭神は，五穀豊穣をもたらす神として住民の尊敬を集め，毎年旧暦９月 27 日（今では新暦 10 月 27 日）のホゼ（豊祭：語源は放生会）の日に太鼓踊りをはじめ，諸芸能が奉納されていた。

古老によると，この踊りは源頼朝の鎌倉幕府開設を祝って踊られたともいわれ，豊作感謝の踊りで，凶作の年には踊らないという。

踊り手は総員 20 名で，太鼓打ちの青年（ヒラ）16 名，中打ちの少年（カネと小太鼓），歌あげの老人数名が，それぞれ男神・女神・老神をあらわす。大太鼓の青年たちは，白装束に白いはちまき（昔は植物のカズラであったという）をし，孔雀や山鳥の羽根や造花で飾った矢旗を背負う。また中打ちの少年たちは女物の衣裳をつけ造花の花かんむりをする。歌あげの老人たちは，紋付の羽織を着て細長い白いシベを下げた菅笠をかぶって歌に合わせ，青年の踊り手が円陣をつくり，太鼓やカネの連打で勇壮にリズミカルに踊る。